

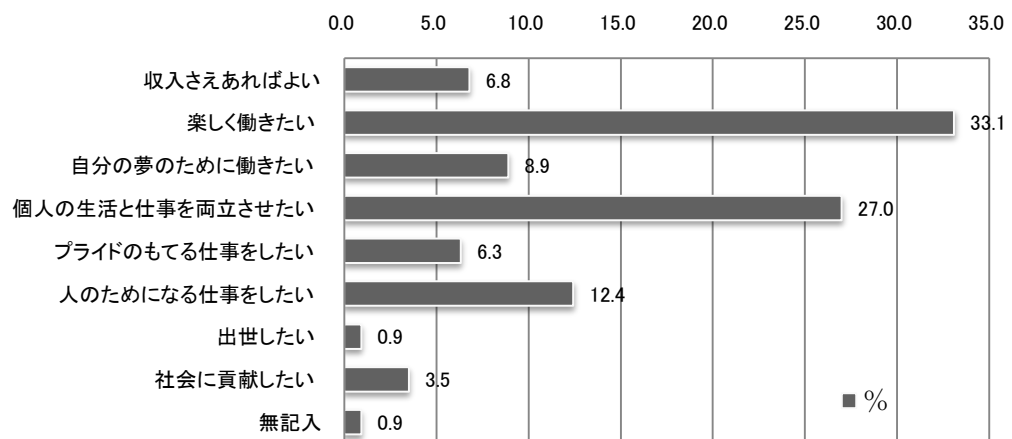
3. 将来の仕事に関する意識

Q6 あなたの「仕事観」に最も近いものはどれですか？（ひとつだけ）

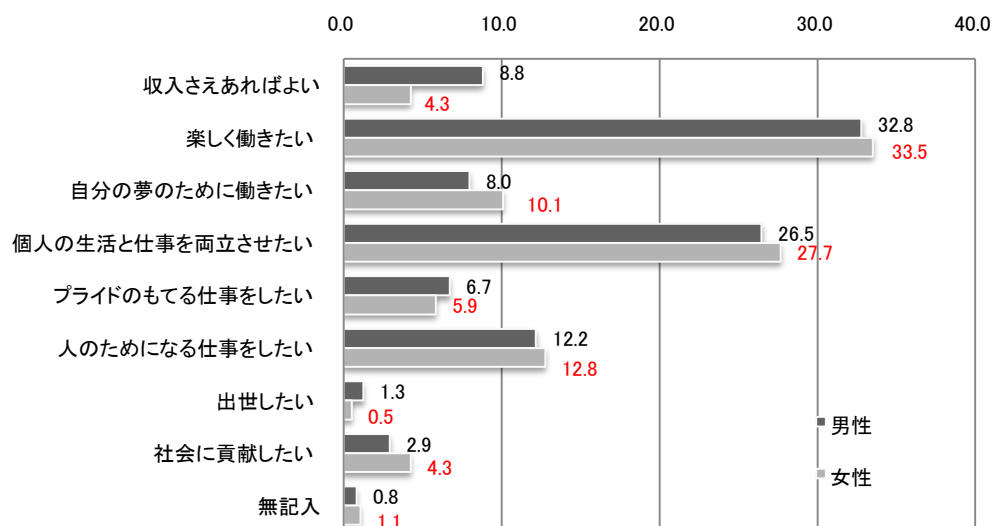
■ 3分の1の学生が「楽しく働きたい」と回答

- (1) 全体で見ると、仕事観として最も多かったのが「楽しく働きたい」の33.1%、次いで「個人の生活と仕事を両立させたい」27.0%、「人のためになる仕事をしたい」が12.4%であった。その他の項目はすべて1割未満にとどまっている。
- (2) 男女別にみると、男女による傾向の違いはほとんどないが、回答数は少ないものの「収入さえあればよい」は男性が女性の2倍。一方、「社会に貢献したい」は女性が男性の約1.5倍であった。
- (3) 「2011年マイコミ大学生就職意識調査」との比較では、傾向に大きな違いはないが、回答数は少ないものの「収入さえあればよい」の項目は今回調査は比較調査の4倍であった。

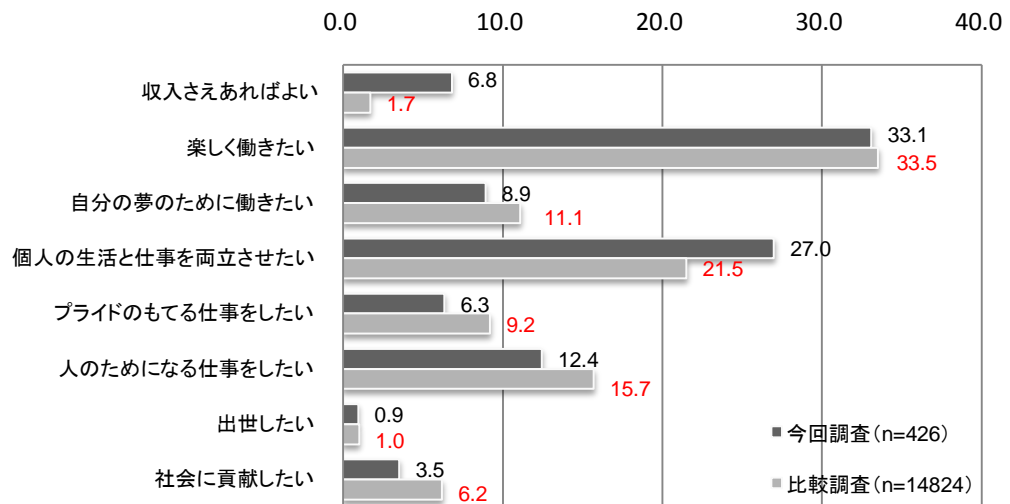
Q6 仕事観（全体）



Q6 仕事観（男女別）



Q6 仕事観（比較）



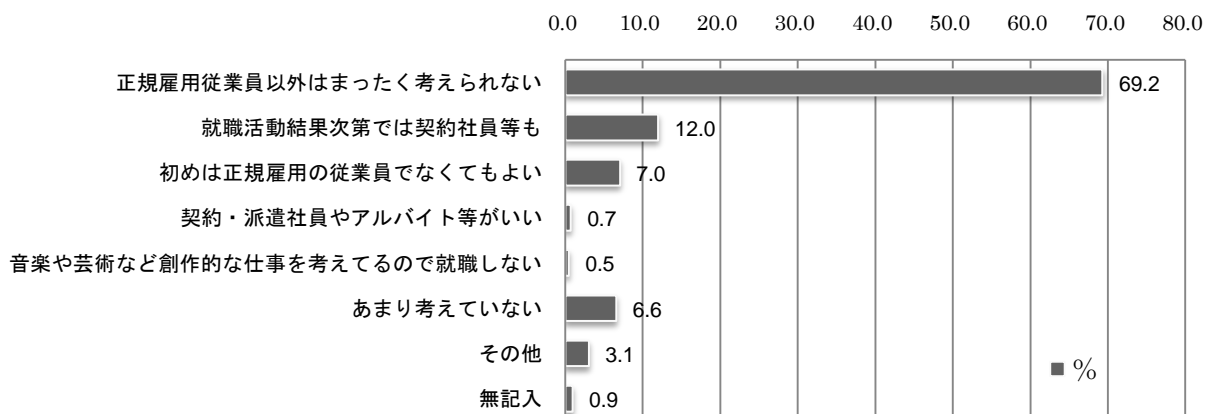
「2011年度マイコミ大学生就職意識調査」と比較

Q7 あなたの希望の雇用形態はどれですか？（ひとつだけ）

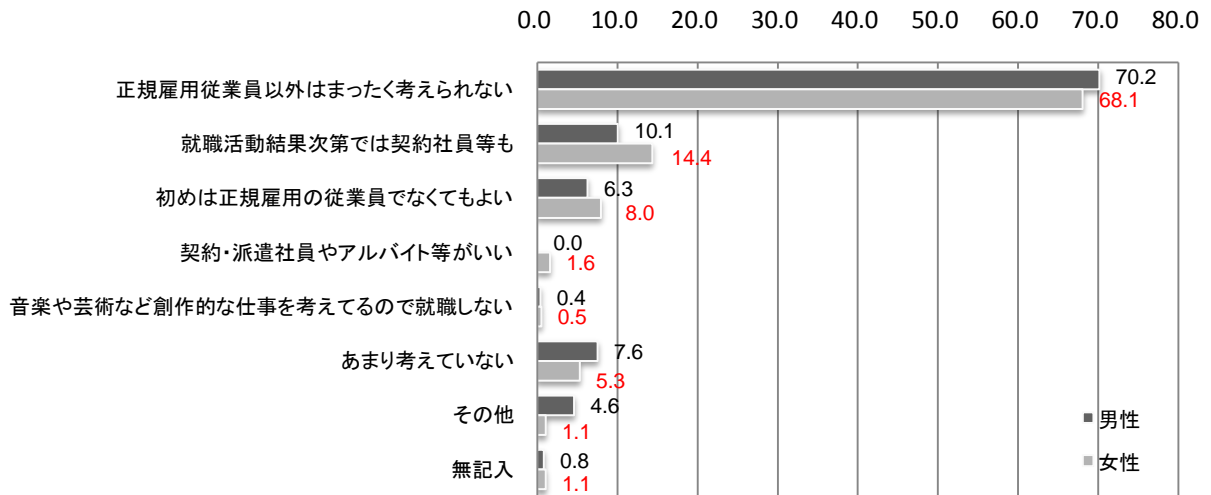
■ 約7割が「正規雇用従業員以外はまったく考えられない」と回答

- 全体で見ると、「正規雇用従業員以外はまったく考えられない」が約7割と圧倒的に多い。他の項目はかなり離れて、「就職活動結果次第では契約・派遣社員、アルバイト、フリーター等になるかもしれない」が12.0%、「専門知識を生かしたいので、初めは正規雇用の従業員でなくてもよい」は7.0%となっている。
- 男女別で見ると、男女による傾向の大きな違いはないが、「正規雇用従業員以外はまったく考えられない」は男性が多く、逆に「就職活動結果次第では契約・派遣社員、アルバイト、フリーター等になるかもしれない」は女性が多い。
- 「大学生のキャリア意識調査 2007」との比較では、どの項目についても大きな違いはなかった。しかし、「音楽や芸術・文学など創作的な仕事を考えてるので就職する考えはない」の項目は回等数は少ないものの、比較調査は今回調査の7倍となっている。

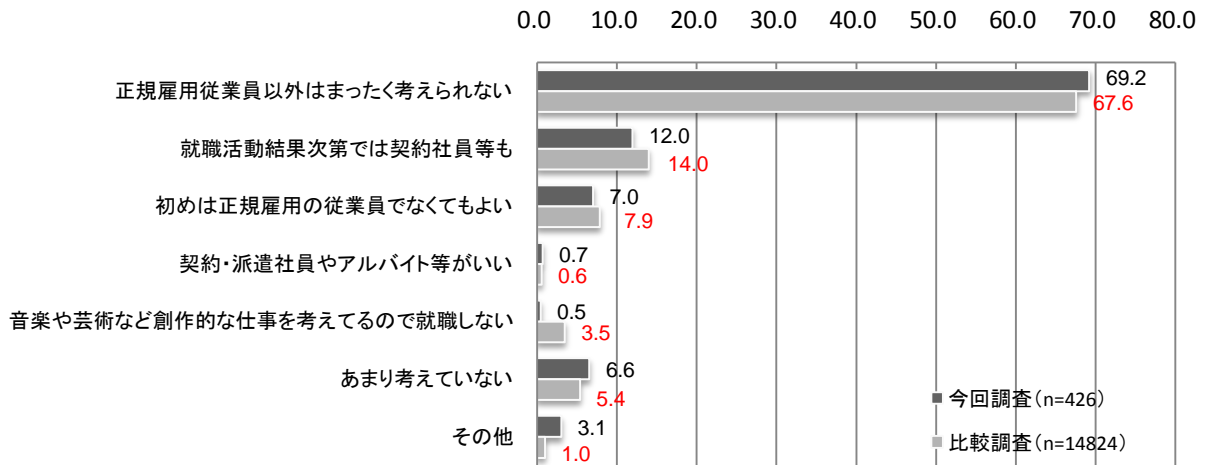
Q7 希望の雇用形態（全体）



Q7 希望の雇用形態（男女別）



Q7 希望の雇用形態（比較）



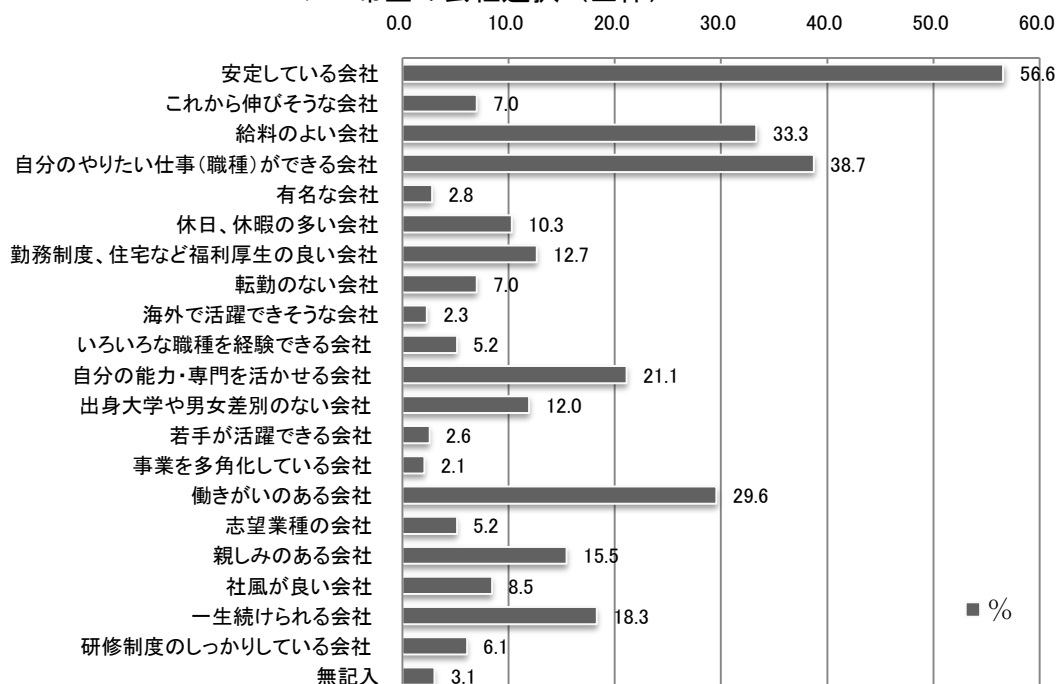
「大学生のキャリア意識調査 2007」と比較

Q8 あなたが会社選択をする場合、どのような会社がよいと思いますか（3つ選択）

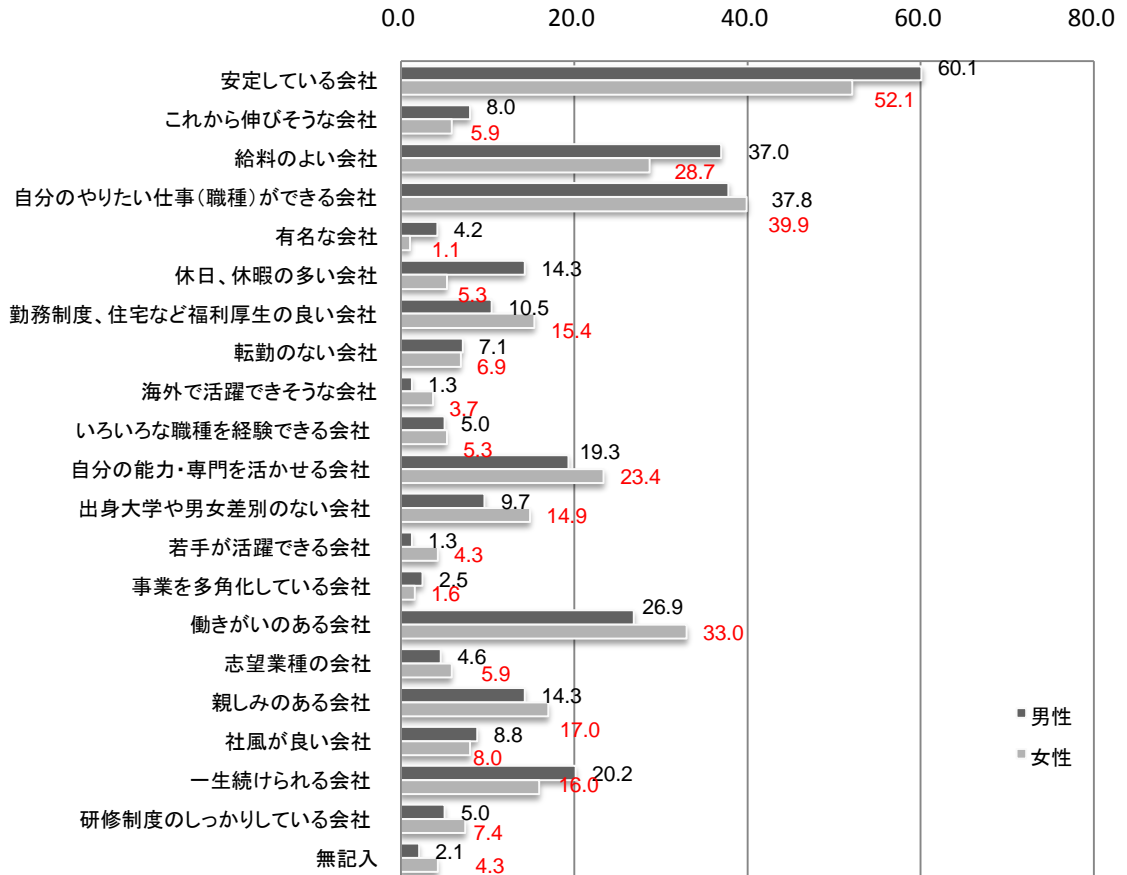
■ 会社を選択する際の条件として、半数以上が「安定している会社」を選択

- (1) 全体で見ると、会社を選択する際の条件として、「安定している会社」が他の項目を引き離して、56.6%と最も多かった。やや離れて「自分のやりたい仕事（職種）ができる会社」38.7%、「給料のよい会社」33.3%、「働きがいのある会社」29.6%と約30%前後で並んでいる。
- (2) 続いて、「自分の能力・専門を活かせる会社」21.1%、「一生続けられる会社」18.3%、「親しみのある会社」15.5%、「勤務制度、住宅などの福利厚生の良い会社」12.7%、「出身大学や男女差別のない会社」12.0%、「休日、休暇の多い会社」10.3%となっている。それ以外については1割未満にとどまった。
- (3) 男女別にみると、男女による傾向の違いは小さいが、差が5ポイント以上の項目で見ると、男性が女性より多いのは、「安定している会社」、「給料のよい会社」、「休日、休暇の多い会社」であった。これに対して、女性が男性よりも多いのは、「働きがいのある会社」、「出身大学や男女差別のない会社」と、女性のほうが男性よりも性別にとらわれず、働きがいのある会社志向が高い傾向が伺える。
- (4) 「2011年度マイコミ大学生就職意識調査」との比較では、選択項目の数の多い順にベスト5を比較すると、今回調査は「安定している会社」、「自分のやりたい仕事ができる会社」、「給料がよい会社」、「働きがいのある会社」、「自分の能力・専門を活かせる会社」と続く。一方、比較調査は「自分のやりたい仕事ができる会社」、「安定している会社」、「働きがいのある会社」、「社風がよい会社」、「勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社」となっている。
- (5) 今回調査では、会社の安定性や給与面が重視されているのに対し、比較調査では自分のやりたい仕事（職種）ができることが最も重視されている。

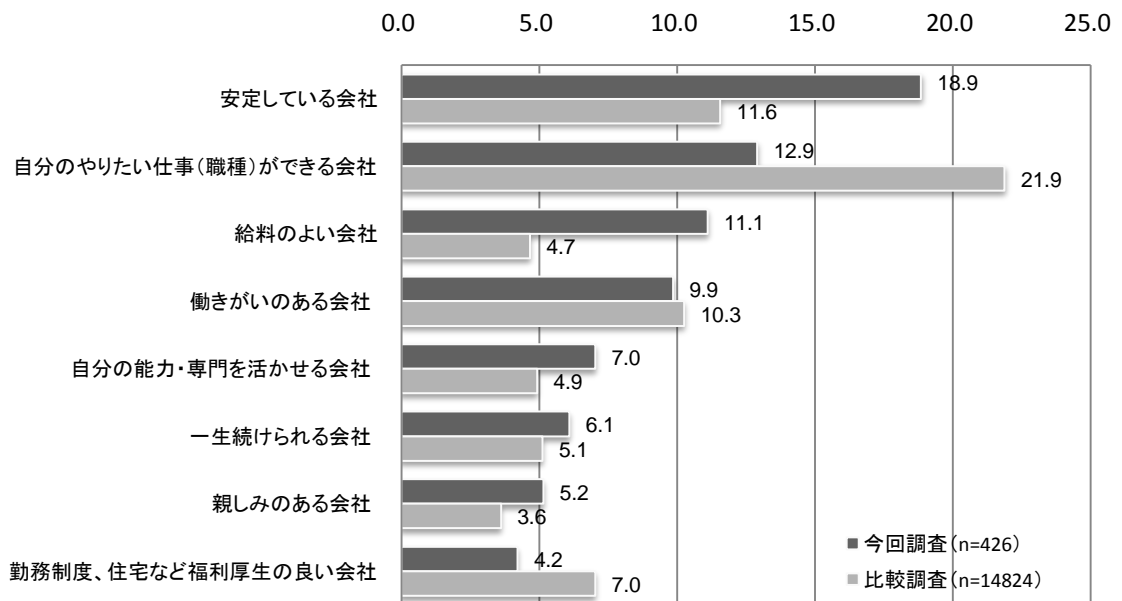
Q8 希望の会社選択（全体）



Q8 希望の会社選択（男女別）



Q8 希望の会社選択（比較）



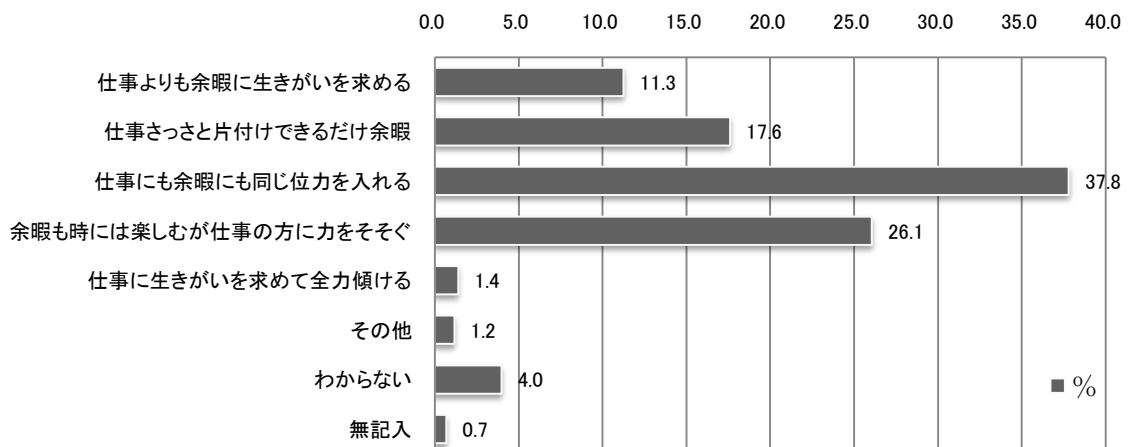
「2011年度マイコミ大学生就職意識調査」と比較
 選択肢が異なるため、それぞれの選択の総数を100等
 分し、パーセンテージを出し直している。

Q9 仕事と余暇のあり方（ひとつだけ）

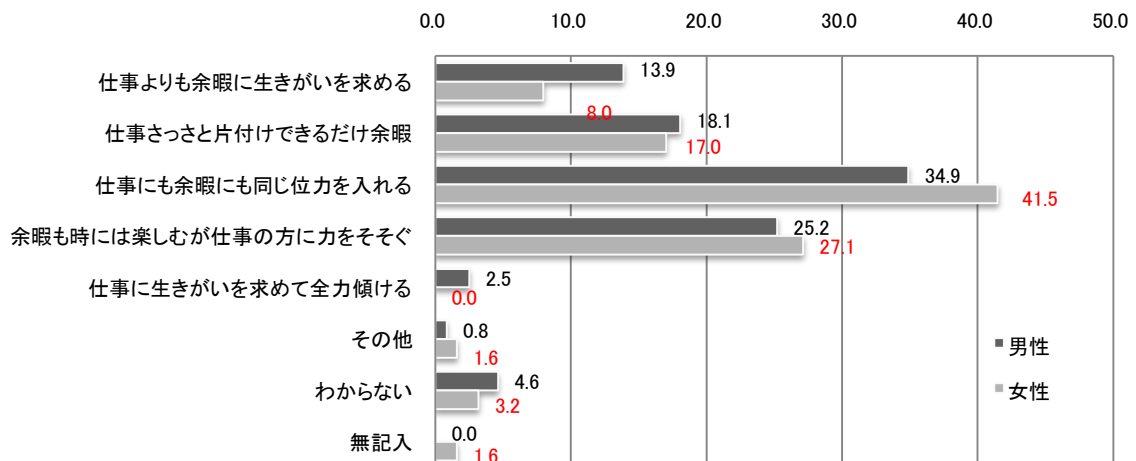
■「仕事にも余暇にも同じ位力を入れる」が4割と最も多い

- (1) 全体で見ると、仕事と余暇のあり方として、最も多かったのが「仕事にも余暇にも同じ位力を入れる」の37.8%であった。次いで「余暇も時には楽しむが仕事の方に力をそそぐ」の26.1%、「仕事さっさと片付けできるだけ余暇」の17.6%と続いた。
- (2) 男女別にみると、女性が男性よりも多い項目は、「仕事にも余暇にも同じ位力を入れる」、「余暇も時には楽しむが仕事の方に力をそそぐ」。男性が女性よりも多い項目は、「仕事よりも余暇に生きがいを求める」、「仕事さっさと片付けできるだけ余暇」と、女性のほうが男性よりも仕事に力を入れたいと思っている傾向が高いことが伺える。
一方、「仕事に生きがいを求めて全力傾ける」の項目については、女性は皆無であったのに対し、男性は2.5%であった。
- (3) 「大学生のキャリア意識調査 2007」との比較では、「仕事にも余暇にも同じ位力を入れる」が今回調査が37.8%に対し、比較調査は47.7%。一方、「余暇も時には楽しむが仕事の方に力をそそぐ」は今回調査が26.1%に対し、比較調査は12.7%であった。

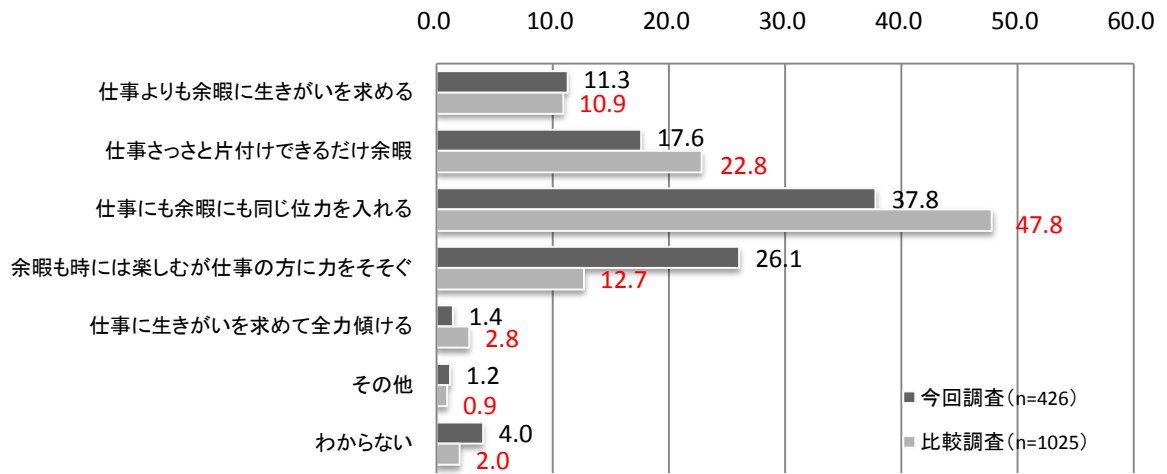
Q9 ワーク・ライフ・バランス（全体）



Q9 ワーク・ライフ・バランス（男女別）



Q9 ワーク・ライフ・バランス（比較）



「大学生のキャリア意識調査 2007」と比較